

駐屯地司令感謝状贈呈式を実施

9月10日、古河駐屯地及び第1施設団への協力に関して功績が著しい個人5名及び1団体に対し、日頃の感謝と敬意を表するとともに、功績を称えるため、感謝状贈呈式を行った。

古河駐屯地後援会長 長塚孝之氏、隊友会古河支部 関口正義氏、古河補給処OB会 仲田徳波氏、元清水理容所店員 高松洋子氏、高塚運送株式会社に対して駐屯地司令からの感謝状を、宇都宮施設OB会 渡邊明氏に対して第1施設団長からの感謝状をそれぞれ贈呈した。

式では、司令が受賞者一人一人に感謝状を贈呈するとともに「平素からの駐屯地と施設団隷下を含む部隊等への継続したご協力とご支援に対して、感謝申し上げます(要旨)」と謝辞を述べ、受賞者の部隊及び駐屯地への貢献に対して感謝の意を伝えた。



元清水理容所 高松氏



後援会 長塚氏



高塚運送(株)



隊友会 関口氏



宇都宮施設OB会 渡邊氏



補給処OB会 仲田氏

茨城県自衛隊殉職隊員追悼式



10月2日、茨城県自衛隊殉職隊員追悼行事が勝田駐屯地で行われた。公務によつて殉職された隊員を追悼し、遺族に対する哀悼の意を表する。この時期に開催されている。

今年度は規模縮小のため、例年とは違い古河駐屯地隊員の参列はなかったが、駐屯地司令の代理として第1施設団副団長が参加、駐屯地隊員を代表して哀悼の意を表した。

修親会・曹友会合同で博物館を清掃



集草作業

11月7日、修親会・曹友会合同で古河歴史博物館の清掃活動に参加した。

この清掃活動は、同所が30周年を迎えたことを機に古河市が「古河歴史博物館クリーンアッププロジェクト2020秋」と銘打ち計画したもので、市職員や、近隣自治会の方も参加した。

駐屯地からは両会の会員39名が参加し、開館以来30年間ほとんど手を付けられなかったというトラック8台分の雑木の伐採、除草・集草等の作業を行った。

今後この活動は継続されるので、引き続き参加を予定している。

駐屯地モニターを招待



9月9日、令和元年度及び令和2年度の古河駐屯地モニターを招待し、駐屯地内の紹介を行った。

自衛隊を紹介する機会が今年度初となった今回は、第101施設器材隊架橋中隊による92式浮橋橋脚へん水及び第337高射中隊による03式中距離地对空誘導弾発射装置の姿勢変換の見学を行い、駐屯地所在の施設科及び高射特科部隊についての理解推進を図った。

令和2年度駐屯地モニター

駐屯地モニターとは、駐屯地の隊務運営の参考になるような意見・要望などを述べてくれる方のことで、駐屯地周辺に居住する方の中から選ばれています。



篠崎さん

澤山さん

齋藤さん

山中さん

土田さん

菅沼さん

新配置隊員の紹介

9月、38名の隊員が各部隊等へ配置されました。皆さん、温かく見守って下さい。



業務隊 内田 曹長 1月27日付



支 処 野代 2 尉 1月30日付

定年退官予定者の紹介

永年の勤務、お疲れさまでした。



はもトピ

この「はもトピ」は、駐屯地や地域のトピックスを幅広く紹介するコーナーです。今回は、市の最北端、渡良瀬遊水地のほとりにある「お雀神社」を紹介します。この神社は約千百年前に出雲大社から勧請したものとされ、古河公方足利成氏を始め、歴代の古河城主が厚く尊崇し「天下泰平・国土安穩・武運長久」を祈願してきました。名前の由来ですが、昔この辺りを「雀が原」といったからとも、「国鎮めの神」といったのが訛って「すずめ」になったともいわれています。夏の祭礼には今も悪疫退散のための「ささら獅子舞」が奉納されています。お正月にお参りする部隊もあると思いますので、参拝の際は、神社の入口にあるご神木の太櫨を見たり、歴史に思いをはせてみてください。(詳しくは、古河市ホームページを参照)

各部隊等の活動紹介



92式浮橋を渡る16式機動戦闘車



検問所において警戒にあたる隊員



軽門橋の構築



飛行場のAs舗装工事

第101施設器材隊は9月25日から10月4日までの間、習志野演習場、鬼怒川河川敷、宮城県の北上川及び相馬原演習場において、令和2年度第1次団訓練検閲を受閲した。検閲中、隊長は「任務必遂」を要望し、全隊員は気持ちを一つにして訓練検閲に臨んだ。

当初、習志野演習場において航空自衛隊と協同して航空自衛隊基地内の重要施設の防護及び警備の任務にあたり、鬼怒川河川敷では国民保護等派遣命令が発出されたという想定の下、近隣住民の避難・誘導を目的として、架橋中隊が5舟5導板による軽門橋及び92式浮橋を構築し、民間等の車両の通過させた。想定では、隊主力は相馬原演習場に進出して集結地を占領、特殊器材中隊は飛行場のアスファルト舗装工事の任務を遂行した。架橋中隊は当初、北上川での応急架設命令に対し、施設教導隊及び第104施設器材隊架橋中隊との共同作業により、橋長約230mに及び応急橋梁を92式浮橋24台を使用して迅速に架設、以後、相馬原演習場に転進してパネル橋MGBを構築、それぞれを示された期間内に終了させた。

長期間の検閲ではあったが、隊員一人一人が克己・協力しあい、全ての任務を完遂した。



野外行動訓練

第337高射中隊は9月19日から26日までの間、富士演習場において第1回中隊野外行動訓練を実施した。

訓練期間中、当初2日間にはわたり機能別訓練を行い、隊員の基礎動作を、5日間にわたり一連の状況下における訓練を行い、部隊の基本的行動を演練した。中隊は11月の検閲に向けて、さらに練成を重ねていく。



2. 5型LP構築

第301ダンプ車両中隊は9月25日から10月4日までの間、令和2年度第1次団訓練検閲を受閲した。

本検閲では、平素第1次団訓練準備、不法行動対処として、宇都宮駐屯地内において重要施設の防護警備、武力攻撃事態等への対処として、相馬原演習場内において方面後方地域における陣地構築及びMSR（補給幹線）維持補修の施設支援を実施した。

陣地構築では弾薬中隊の指揮所を構築、MSRの維持補修では、観測台及び取付道の構築を実施し、運土回数501回、運搬量3600m³を運搬して任務を完遂した。



MSR維持・補修



新戦力6名

9月14日、新たな若い力が加わった。今年度の新配置隊員は6名で、皆元氣良く挨拶をする笑顔の素晴らしい隊員ばかりだ。本人たちは「一日一日を無駄に過ごさずことごとく毎日しっかりと訓練をし、中隊の即戦力になっていきたい」と意気込みを話していた。

この元氣溢れる新たな風が、中隊の良い刺激となることは間違いない。



臨時回線の開設依頼を受け、電話機の点検を行う中川1士

第320基地通信中隊古河派遣隊は、10月12日から18日までの間、令和2年度方面隊訓練検閲を受閲した。

昨年度からの集大成であった本訓練では、基地通信所の維持・運営、他部隊に対する通信回線の提供、通信所周りの警備・不審者対応・自衛警戒戦闘・救急法等、実際の状況を想定した「敵を意識した行動」を行った。



真美3佐着任式

第341会計隊は令和2年度前期の定期異動で、真見3佐を第32代会計隊長として迎えた。

隊長は着任式において「前進・思いやり」の2点を要望した。

引き続き会計隊は、真見3佐を核心として、要望事項を胸に任務にまい進していく。



鉄塔上での昇任者申告

昇任する柳1士の上を目指しているので通信鉄塔で申告したい」との要望を聞き入れ、9月1日付昇任者申告行事を鉄塔上で実施した。柳1士は恐る恐る登って行ったが、胸を張り元氣よく陸士長への申告を行った。



見送られる前隊長大塚3佐



大塚3佐要望のポーズで思い出の1枚

各部隊等の活動紹介



閉会式での表彰



偽装網競技会



2Gp走者



敵方を警戒する隊員

関東補給処古河支処は9月15日から17日までの間、今年度2回目となるBASE訓練を実施した。古河駐屯地及び古河市内において実施した本訓練は、陸曹の実員指揮・指導能力並びに陸士の戦闘基礎動作の練度向上を目的としており、併せて訓練の一部に偽装網競技会を取り入れて行った。一連の訓練で、技能の習得・向上及び分隊間での団結の強化を図ることが出来た。

今回の訓練を通じて得たものを3回目となる次回の訓練に生かし、更なる向上を目指す。

また、9月29日には、令和2年度支処持続走競技会を実施した。

各人は練成の成果を発揮し、個人走となる3キロメートルを力走した。

各課・工場対抗の部では、昨年に引き続き輸送課が優勝、第2位保管分類課、第3位整備工場という結果となった。

今後は、12月に予定されている関東補給処持続走競技会に向け、各人が更なるレベルアップを図り、優勝を目標に練成を続けていく。

古河駐屯地業務隊は7月21日、駐屯地内において油流出を想定した不測事態対処訓練を実施し、油流出時の対処要領について演練するとともに対処能力の向上を図った。

訓練に際し、駐屯地所在各部隊に対して油流出時の対処要領の教育を実施して、報告要領及び適切な対処要領について普及・徹底を図った。

9月9日及び11日には第1回体力検定を実施して、所属隊員の練度を評価・判定した。30度を超える猛暑の中での実施であったが受検者23名全員が合格した。

また、2四半期駐屯地施設の整備として、駐屯地外柵補修、102DS整備工場床補修、WAC外来歩道屋根整備、受水槽清掃、消防設備点検、汚水流量計取替等計42件の整備を実施し、勤務・生活環境の不断の改善を図った。



駐屯地外柵補修



油流出防止作業



貯水槽清掃作業



体力検定



全員走の部



助教による展示



駅伝の部



訓練風景

第102施設直接支援大隊は9月14日、15日の両日で、令和2年度大隊持続走競技会を実施した。

競技会では、6コ中隊が各中隊一丸となって全員走の部及び駅伝の部で1位を競い合い、部隊の団結強化及び士気の高揚を図ることができた。

全員走の部第1位を本部付隊（古河）が、駅伝の部及び総合の部第1位を第2直接支援隊（宇都宮）がそれぞれ受賞した。

また、8月31日から9月17日までの間、後方支援隊の部隊格闘指導官養成対象者6名に対し、特級練度を基準とした練成訓練を実施した。

本訓練では、第1直接支援中隊長を訓練隊長、各部隊から上級格闘指導官2名及び部隊格闘指導官6名を助教として召集し、被教育者に対して教育技術の練度向上を図り、12月に実施される方面部隊格闘指導官養成教育の参加に万全を期した。